

令和3年11月20日（土）、京都府宇治市において、関西慶應寮和会第19回定例懇談会が開催されました。新型コロナウイルスの影響により、昨年につき、春期開催が中止された本会ですが、今回は新卒業生の小野さんを含む14名の出席により実施に至りました。

＜出席者＞ 14名（敬称略・部分参加も含む）

S 4 0 商 増田 登	S 4 1 法 相本 琢郎	S 4 2 法 酒井 克己
S 5 2 工 青嶋 義晴	S 5 5 商 袖岡 稔	S 5 5 法 山代 和也
S 5 8 工 松永 修	S 6 1 商 阪本 光宏	S 6 3 商 小堀 誠
H 0 4 商 井内 達彦	H 0 5 経 淨住 徹朗	H 1 0 理 兵藤 公治
H 1 6 経 宮崎 博	R 0 3 文 小野 晋司	

I 第1部 関西電力宇治(水力)発電所（13:30～14:30）

本懇談会では、我が国の基幹産業であるエネルギー供給に関して学ぶために、今まで蹴上発電所（第6回）や三宮変電所・神戸給電制御所（第17回）の見学を行ってきました。今回は、これらの知見を更に深めるために、関西電力宇治(水力)発電所を見学しました。

宇治発電所は、1913(大正2)年、宇治川電気(関西電力の前身)が 国内最大規模の発電量を誇る水路式水力発電施設として設立し、現在に至るまで営業運転を続けている発電所です。



発電所構内で



発電設備（水車と発電機）

発電用水は、大津市南郷から発電所までの標高差を利用した11キロの水路を通じて供給されています。

発電所の電力は、京阪電車を動かし、ユニチカなど多くの工場を誘致するなど、宇治市の近代化と発展に寄与しました。

また本発電所は歴史的建造物としても価値が高く、土木学会より、土木遺産の顕彰を通じて歴史的土木構造物の保存に資することを目的とした選奨土木遺産に認定されています。



発電所水路を見学

Ⅱ 第2部 総会（14:30～15:00）

続いて、宇治発電所内の会議室にて令和3年度総会を開催。

冒頭青嶋会長からご挨拶があり、その中で、三田キャンパス内「福澤諭吉記念 慶應義塾史展示館」における「日吉寄宿舍」模型展示の紹介、また、今夏の現役寄宿舍生への食料支援にあたっての多くのご寄付について御礼のお言葉がありました。その後、議案が審議され、収支計算書（暫定）および次期役員が全会一致のもと承認されました。

次期役員は次のとおりです。（いずれも再任）

青嶋会長 西村会長補佐 井内会計 松永会計監査

最後に、小野さんから自己紹介と関西慶應寮和会活動に対する抱負を述べていただき閉会としました。



総会で挨拶する
小野さん(R3年卒)

Ⅲ 第3部 平等院（15:30～16:30）

続いて、世界遺産古都京都文化財の一つ平等院を、ガイドさんの先導のもと3班に分かれて拝観しました。

平等院は天台宗・浄土宗系の単立寺院。藤原道長の別荘であったものを1052(永承 7) 年に道長の子・頼通が寺に改め、翌年阿弥陀堂（鳳凰堂）を建立。阿弥陀堂や堂内にある定朝作の阿弥陀如来像、51 体の雲中供養菩薩などは国宝に指定されています。

1994(平成6) 年「古都京都の文化財」の一つとして世界遺産（文化遺産）に登録されました。阿弥陀堂は平成の大改修により、平安時代に最も近い姿によみがえり、見違えるほど優美になっています。

コロナ緊急事態宣言が解除されたものの例年よりは比較的小さい人数の中で、紅葉の文化財宝庫：平等院を満喫することが出来ました。



平等院鳳凰堂

Ⅳ 編集後記

新型コロナウイルスの流行が一旦落ち着き、今回一年ぶりの懇談会を開催できました。皆さまお元気にお集りいただき、誠にありがとうございました。

疫病・自然災害と、個々の力で抗うことがなかなか難しい事態が後を絶ちませんが、向上心を挫かれることなく、関西慶應寮和会を通じて、皆さまと生涯の学びを重ねてまいりたいと思っています。

今後も楽しく有意義な活動を続けていく所存ですので、皆さまのご支援、ご協力をよろしくお願いします。



鳳凰堂前で集合写真を撮る

以上

